**1月20日The F.U.N代表　元東急ホテルズ会長 梅原　一剛　氏**

**問1　学んだこと、印象に残った言葉・エピソード、メッセージなど**

講義の中で「マネジメント能力は、リーダーの経験から得られるもので、まず小さなリーダーとして、権限と責任を持って活動すること。そして、世界に目を向け、世界で何が起こっているかを感じること。」という言葉がありました。やはり、ベンチャー企業として活動を続けていくためには、広い視野と多方面からの視点、特に世界からの観点、発想力、想像力、判断力が必要不可欠だと感じました。（経営・経営１年）

大学から勉強を教えてもらうというスタンスでなく、自ら学ぶ姿勢が大切だと思った。そして海外へいったり、他県へ自分の足で行くことで今みているものだけでなくもっと広い視野で世の中を見ることができるのではないかと思った。(教育人間科学・人間文化 1年)

組織についての話が講演の中にあったが、その組織についての考え方が自分にとって興味深いと思った。組織の評価の基準はその組織に含まれている者やその組織に関係している者の満足度によって決められるという。これはたしかにそうなのだがなかなか気づかないことである。人は組織を見るときその組織の規模や、何をやったかについて目を向けがちである。そのようなことも重要な情報ではあるが、より大事なのはやはり人であるのだと思う。顧客であっても従業員であっても関わりを持った人々がいかに充実したと思えているかがその組織の本当の価値を見極める基準だと分かった。 (理工学部・建築学科1年)

　投資家、オーナーとしての立場からの意見が大変参考になりました。会社側としても定期的に人材を雇用することの大変さ（就職希望者が終身雇用を前提としている）というのは新たに気づかされた一面です。海外にはない日本特有の“強さ”は新たな事業、新たな市場を開拓し、海外勢との差別化を図るうえで非常に大きな強みになるのではないかと感じました。（理工学部数物電子情報系学科3年）

お客様を作り上げることが重要という言葉が本日の講義の中で一番印象に残りました。リピーターになってもらうことも難しいし、ましてや一生付き合って頂くような財やサービスの提供はなかなか出来るものではありません。実際、私自身がこの19年間ずっと使ってきた財やサービスがあるかと聞かれれば、挙げるものがありません。また、人を雇うことの責任ということを考えさせられました。梅原さんは、定期的に(終身雇用で)人を雇うことは難しいと仰っていました。確かに、その人の人生を保証することになるため、簡単にできることではないなと思いました。（経営/会計・情報1年）

本日の講義で一番印象に残った言葉は、“自分の体験は自分だけのものであり、論理的に体系化して普遍化してこそだれにでも役に立つものになる”という言葉です。私はこれまで自分自身の成長のために何かしら活動をして、経験をえるだけで満足していましたが、それではだめなのだとハッとさせられました。その経験を他の活動において生かしたり、人に伝えていくなどして形にしなければなりません。梅原さんがおっしゃっていたように、漫然とただただ物事をこなし、それに満足していてはいけないのだと危機感を覚えました。自分のやりたいことはすでに見つけていて、それが自分の確かな柱となっているので、それを実行するにあたって本日の講義で学んださまざまなヒントをしっかりと意識していきたいと思いました。（経営 経営1年）

**問2　今後の学びやアクションに繋げたいこと**

自分は経営向きではないと考えている。せめて運営すること位は出来るようにならなければいけないなと思った。「何かやりたいこと」があって大学に来たのか？とても心に刺さる言葉で、自分は“No.”である。やってみたいことはどうしても漠然としていて漫然としている。よく、大学で研究してことは使わないという。しかし、研究内容はともかく研究手段や研究したということを使わないことはない。講義の内容とは違う側面の学んだことを意識できるかで講義の質は高まっていくと思う。（理工/材料2年）

世界の現実を私たち学生は知らなさすぎるとおっしゃっているのが印象に残っています。確かにテロなどの大きくニュースとして取り上げられていることは私たちも目にする機会がありますが、外国から見た日本の姿や隣国である中国の経済問題など、知らないことが多くあります。学生の今からでもそういった問題に目を向けられる機会はあるので、今後は大切にしていきたい。（経営・会計情報１年）

私は、今日の講義を受ける前までは、普通に大学を卒業して、普通の企業に就職するものだと思っていましたが、今ある会社が何十年も先まで残っているとも思いません。なので、自分が会社を作ることも考慮に入れていきたいと思いました。（経営学部経営学科1年）